

庭は「作庭4分、育成管理6分」 手入れをしながら育んでいく

高岡 今日は無鄰菴(むりんあん)の素晴らしい庭園をご案内いただき、ありがとうございました。加藤さんの丁寧なご説明で、この庭の素晴らしさを改めて知りました。一人で見たのではとてもわからないし、感じることもできなかったことがたくさんありました。

大山 私も一応大学の造園科を出ているの

ですが、今日は一体何を勉強してきたのかと反 省させられました。日本の先輩たちがつくりあげ たものを、もっと学ばなければいけませんね。

加藤 私たちもこの庭をお預かりし、日々学 びながら仕事をしています。庭には竣工はあっても完成という概念はありません。庭に携わる 私たちにも完成はないと思っています。先人に向き合い、対話を重ね、自らを成長させながら 受け継いでいかなければなりません。

高岡 現在は植彌加藤造園さんが無鄰菴

を管理・運営されているようですが、無鄰菴 とはどのような庭園なのでしょうか?

加藤 無鄰菴は、明治29年(1896)に造営された元勲・山縣有朋の別荘です。庭園と母屋、洋館、茶室で構成されています。庭園は約950坪で、山縣さんの指示でつくられました。近代日本庭園の傑作といわれているんです。高岡 山縣さんという人は、軍人、政治家という印象が強いのですが、庭にも造詣の深い人だったんですね。



植彌加藤造園株式会社 代表取締役社長京都芸術大学教授、博士(学術)

加藤友規 Tomoki Kato

千葉大学園芸学部卒業後、造園業を営む家業に入る。日本の庭園文化を継承しつつ、最高の技術と感性、美意識で伝統を創造するプロの職人集団を組織し、日々精進している。現在、京都芸術大学においても実学に則した庭園研究の指導に取り組んでいる。



株式会社緑演舎 代表取締役社長

大川雄州 Yuya Ooyama

東京農業大学造園科学科卒業。ガーデンデザイナーとして、戸建て住宅の庭から大型商業ビルの屋上庭園まで様々な空間の開発を手がける。株式会社緑演舎を創業し、代表取締役に就任。資生堂汐留オフィス、阿倍野ハルカス近鉄本店屋上など多くの作品がある。



株式会社タカショー 代表取締役社長

高岡伸夫 Nobuo Takaoka

大学卒業後1980年に株式会社タカショーを友人 と4人で設立。ガーデニング産業を文化型産業へ と転換し、タカショーをトップメーカーへと成長さ せる。海外事業も積極的に展開。中国、ヨーロッ パ、北米、東アジアを中心にグローバル化を推進 1 アいス







いつ来ていただいても 一期一会の庭で あるようにしたい _{加藤}

加藤 そうですね。山縣さんは内閣総理大臣や枢密院議長などを務めた後、大正11年(1922)に亡くなります。その後、財団法人無鄰菴保存会を経て昭和16年(1941)に京都市へ寄贈され、現在は京都市の所有となっています。昭和26年(1951)には国の名勝庭園に指定されました。京都市所有となってからは、市が直接管理をされていました。弊社は、平成19年(2007)4月から庭園の年間管理を、平成28年(2016)4月以降は指定管理者として、庭園と建物を含む無鄰菴全体の管理・運営を行っています。

高岡 管理・運営にあたってどのような方針 をお持ちですか?

加藤 私たちは、単なる現状維持ではなく、 手入れを通して庭園の景色を育んでいく フォスタリング(育成管理)を基本方針として います。施主の山縣さんがどんな庭をつくろ うとしたのか、その指示を受けて作庭に当 たった庭師の七代目小川治兵衛がどういう 思いで取り組んだのか。さらには、代々この 庭を守ってきた先輩庭師たちが何を考えた のか。その意図や思いを残された庭から読み 取り、時空を超えて対話をしながら、現代の 無鄰菴にふさわしい景色を育むお手伝いを する、そして次代に継承していく、ということ を考えております。

高岡 確かに今日教えていただいた、東山を「主山」として位置づけた庭の構成とか、池ではなく生き生きとした水の流れをつくっているところとか、苔に代えて芝生の景色を重んじたところとか、そういう施主の思いを知ると、庭を見る楽しみは何倍にもなりますね。例えば瀬を渡るときの飛び石が、あえて水面すれすれに設けられていると伺いました。確かに、もう少し石が水面から出ていた方が、靴が濡れる心配はないのですが、本当に低い。それは水の流れを体感させるためなんですね。

加藤 そうなんです。そしてそれは、この庭が 旧来の日本庭園のような海や島々を象徴す るものではなくて、小川の流れや里山の風景 を原寸大で表現するという自然主義的な庭 だからなんですね。 高岡 なるほどと思いました。何も知らないままだったら、紅葉がきれいだなとか、心がやすまるな、といった素朴な印象で終わっていたに違いありません。

加藤 この庭園の造営は先ほどもお話しし たように明治29年(1896)ですから、夢窓疎 石や小堀遠州といった人のつくった庭に比べ たらずっと新しいわけです。庭のある岡崎・南 禅寺界隈も、都が東京へ移った後の京都が、 琵琶湖疏水を開诵させ、水力発雷所をつく り、その電気を使って電車を開通させるといっ た近代化の先駆けとなった場所であり、東山 を望む風光明媚な別荘地としても新たに注 目を集めたところでした。ここに山縣有朋がつ くった庭も、先ほどご案内したように、京都の 伝統的な庭園の作風を用いず、東山を主山 とした開放的な芝生空間と軽快な水の流れ を有する近代庭園になっています。一口に 「日本庭園」といってしまえば、夢窓疎石の西 芳寺庭園と同じと受け止められるかもしれま せんが、大きく異なるんですね。近代庭園とし て山縣さんが何をしようとしたか、それを読み 解き、その思いを知ることが、庭を育んでいく 第一歩だと考えています。

日本庭園には少なくとも 256通りの表情がある

加藤 庭を育んでいくということは、私たち管 理者だけの仕事ではありません。この庭を楽し んでくださる皆さんとともに進めていきたいと 思っています。私たちの役割は、この庭の魅力 を皆さんにわかりやすくお伝えし、大切に思って いただく心を育み、一緒にこの庭や日本の庭 の文化を継承していくことです。だからご来園 の皆さんにも、一度見て終わりではなくリピー ターになっていただきたい。日本庭園は、その 季節や時刻、天気に合わせてたくさんの見所 があるようにつくられています。少なく見積もっ ても256通りの異なる表情があるんです。

高岡 どういう計算ですか?

加藤春夏秋冬、朝昼夕晚、晴雨曇雪、花鳥 風月――この組み合わせで生まれる庭の顔は 4の4乗ですから256通りなんです。それだけ の違いが味わえるのが日本の庭です。今日は 雨だから雨の庭を見てみようと思っていただ ける。趣がまったく違いますから、その楽しみが あるんです。

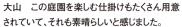
高岡 確かに雨の庭はいいものですね。春夏 秋冬はさらに二十四節気七十二候に分ける こともできるから、そうすると256どころではな



世界幸福度ランキング 点数(約) 国名 1 フィンランド 7.80 2 デンマーク 7.64 **3** スイス 7.56 11 カナダ 7.23 7.16 17 ドイツ 7.07 18 アメリカ 6.94 6.66 23 フランス 30 イタリア 6.38 5.87 61 韓国 5.87 62 日本 5.12 94 中国

世界幸福度ランキングとは…

国際幸福デーの3月20日に、国連の持続可能な開発ソリュー ションネットワーク(SDSN)が毎年発表している幸福度のランキ ング。各国の国民に「どれくらい幸せと感じているか」を評価しても らった調査に加えて、GDP、平均余命、寛大さ、社会的支援、 自由度、腐敗度といった要素を元に幸福度を計る。 [出典:HUFFPOST]



一番心地いい場所でもある。たとえば縁側で くなる。見所は尽きませんね。 すね。昔はどの家にも、必ずありました。近所 の人もここを訪ねてきた。玄関から来る人など 控えめな数字なんです。 いなかったんですね。しかし、そういう日本の伝 統である"庭屋一如"の考え方はすっかり失わ

れてしまいました。

加藤 特に都市部では、庭のある個人邸を 維持するのが難しい時代になってきましたね。

加藤 そうです。時刻も4種類ではなく、もっと 細かく分けられます。256というのは、本当に

大山 入園時に渡されるチケットも楽しいで すね。

加藤 5種類(雨・苔・野花・流れ・東山)用意 しています。雨の日にはスペシャルチケットを、 その他はどれになるかはお楽しみです。山縣さ んの無鄰菴にまつわる言葉を紹介していま す。「雨:中にひときわ目だちてあはれぶかきは 雨のけしきなり」、「苔:苔によっては面白くな いから私は断じて芝生を栽(うえ)る |、「野花: 苔の青みたる中に名も知らぬ草の花の咲出 たるもめずらし」、「流れ:従来の人はおもに池 をこしらえたが自分はそれより川の方が趣致 がある |、「東山:この庭園の主山というはの う、此前に青く聳える東山である。石の配置、 樹木の栽方、皆これから割り出してこなければ ならんという具合です。

高岡 こういうチケットならずっと取っておき たいし、集めたくなりますね。

加藤 無鄰菴には無鄰菴が育まれてきた 120年の物語があります。まずは山縣有朋が 庭をこんなふうに考えていたということをお伝 えしたいと思いました。庭は暮らしの場です。あ の時代はこんなふうに庭を楽しんでいたとい うことをお伝えし、当時の暮らし方と自分たち の今の暮らしとを向き合わせていただきたい。 ほかにも、日本庭園を楽しむイベントやアク ティビティーを企画したり、「庭園メンバーズ (メルマガ会員)」になっていただいて折々の 情報をお伝えしています。また「無鄰菴フォス タリング・フェローズ」を募ってボランティア活 動をしていただくなど、何度も来ていただき、 無鄰菴のファンになっていただけるように工 夫しています。

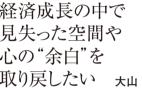
GDP世界第3位の 日本の幸福度は62位 年々下がり続けている

高岡 それにしても、今の家づくりは、庭をど んどん遠ざけるものになっているんですね。本 当は庭と家が揃って初めて家庭です。庭と家 の間には中間領域があって、そこが住まいの

経済成長の中で 見失った空間や 心の"余白"を 取り戻したい 大山

高岡 住宅会社は敷地ギリギリまで建物を 建てようとし、また、管理の手間が施主に敬遠 されるという理由で庭や植栽のスペースをな くしてしまう。残念ながら施主も、庭があると草 むしりが大変とか、木の枝がお隣に越境して 文句を言われる、落ち葉が散って近所からク レームが出るといったことを気にして、庭も木 もいらない、土の部分は露出させずに、コンク リートやタイルで覆ってしまったほうが始末が いい、という感覚になっているんです。実は 日本は、2013年から国連が毎年発表している 「幸福度ランキング」の順位が、年々下降して います。2020年は62位まで後退しました。前 年の58位からさらに落ちているんです。ちなみ に、その前の2018年は54位です。いわゆる先 進国の中で日本は最低です。GDP世界第3 位の国が、こんな状態なんですね。第1位は3 年連続でフィンランド、2位はデンマークで上 位は北欧の国が独占しています。デンマーク といえば "ヒュッゲ" という言葉が日本にも伝 わっていますね。対応する日本語はないので すが、「家族や友人との時間を大切にする」「 自然を身近に感じながら過ごす」「心地よい 空間をつくる」といった価値観を示すものとい われています。ロウソクを一つ灯して、そこに 家族が集まってゆっくり過ごしたりする。

大山 フィンランドやデンマークの冬は本当 に寒いし、夜も長いですね。そういう気候や環 境要因があって、家の中の時間をどう楽しむ かという思いが強いのだと思います。色を楽し



むとかロウソクの炎を楽しむとか、ゆっくり テレワークになって都心に住む必要がなく 流れる日常の時間の中で楽しみを見つけよう なったという人も多い。今までは通勤圏で暮ら という国民性がある。北欧家具は世界的に人 すために、窮屈な環境を我慢していたけれど、 気がありますが、一つの家具のデザインが 少し離れただけでずっと広いところで暮らすこ 美しいかどうかではなくて、背景にある暮らし とができるわけです。空間にゆとりが生まれ、 方に世界中が憧れをもっているんですね。し 通勤に往復3時間かけていた人が、空いた時 かし、日本にそれがないのかといえば、そんな 間を有意義に使うことができるようになった。 ことはない。無鄰菴の庭もそうですが、本来 心の余白ができるということですよね。コロナ は、時間が経つのも忘れて味わうことができる 禍も前向きにとらえて、豊かさや幸せを感じる すばらしい文化がありますよね。 時間を増やして、本来の姿に戻っていくきっか 高岡 でもそれが衰退してしまっている。庭を けになればいいと思います。

楽しむゆったりした日本の文化はどこに行って しまったのかと思いますね。

空間の余白も 心の余白も失われた

大山 高度経済成長で見失ってしまった部 分があると感じます。いろいろなものを積み上 げてきた結果、余白を失ったということではな いでしょうか。空間という意味でも余白がな い。そして、日々の暮らしにも、心の余白がな い。庭を鑑賞したり感じることができなくなって しまっているんですね。その意味では、このコ ロナ禍で、気づきが生まれていると思います。

伝統ある日本庭園 だけが庭ではない 「市中の山居」にも 学ぶものがある mm

加藤 元来日本人は、経済で疲弊してしまう 国民ではないはずです。日本庭園という文化 が育まれている、この一事を見ても、静かに自 然と向き合い、それを楽しむ素地は誰にもあ ると思います。全国で国指定の名勝庭園が 約225件もあり、それを楽しんでいる国民な

んです。師匠の尼﨑博正先生から教えて頂 いた、16世紀後半に日本に滞在していたイエ ズス会宣教師、ジョアン・ロドリゲス『日本教 会史』の話が深く心に残っています。当時商 業で大いに賑わい急速に都市化が進んだ町 衆に関する記述が見受けられます。要約する と、自然に恵まれない都市環境の下で人々 は、隠遁者が自然の中に営んだ草庵をイメー ジして町中の小さな空間に樹木を植え、そこ で茶の湯を楽しみながら自然との対話の場と して活用しており、その空間を「市中の山居」 と呼んでいたというのです。さらに加えて、この 「市中の山居」は都市の中にありながら自然 に親しむもので、純粋な隠遁者の草庵よりも 優れている、こちらの方が深く尊いのだという ことも記しています。

高岡 市中の山居の方が価値があるという のですね。

加藤 本物の自然の中に入れば、誰もが癒 やされるのでそれは当たり前だというのです。 しかし堺では、騒々しい町中でもささやかな緑 に自然を感じ取ってやすらいでいる。経済的 に繁栄した半面、日々の暮らしの中で心のゆ とりが失われてしまった。これではいかんと「市 中の山居」を見いだした。商売も確かに大事



国指定名勝庭園 無郷養 明治29年(1896)に浩堂された明治・大正時代の政治家山豚有明(1838~1922)の別荘、庭園は山豚有明の指示に基づいて、七代日 小川治兵衛により作庭された。それまでの池を海に、岩を島に見立てる象徴主義的な庭園にかわり、里山の風景や小川そのもののような躍動的な流れをもつ自然主義的 な新しい庭園観により造営されており、近代日本庭園の傑作といわれる。南禅寺界隈別荘群の中で唯一通年公開されている庭園で、昭和26年(1951)に 国の名勝に 指定された。洋館の2階には、伊藤博文らと山縣有朋が日露開戦に向けて話し合った「無鄰蕃会議 | に使われた部屋があり、当時の様子を伝える。京都市の所有だが、植 彌加藤造園が指定管理者となっている。(無鄰菴配布資料を基に作成)

だけれど、豊かな心で暮らしを見つめていこう とした日本人は深い、とロドリゲスは感心した わけですね。日本人の原点には、本来そういう 高い精神性があるはずなんです。

高岡 例えば無鄰菴を訪ねるということが、 そういう豊かな心を取り戻すきっかけになれば いいですね。

アメリカ西海岸から来たボタニカルライフ

高岡 大山さんは商業空間やオフィスなど非 住宅の緑化空間のデザインを中心に活躍さ れています。そういう場所も、庭や自然の持つ 価値を思い出させるものという意味がありま すね。実際、非住宅の空間でも、最近は緑が 使われることが多くなっていると思いますが。 大山 非住宅と呼ばれるものには、ホテル、 店舗、オフィスなど、いろいろなカテゴリーがあ りますが、確かにこの5年くらいでこうした空間 に緑があるのは当たり前になってきました。し かしこれは残念ながら日本の伝統文化に由来 するものではなく、アメリカ西海岸を中心にし たライフスタイルが日本に入ってきたものなん ですね。先頭で導入したのがアパレル業界で す。以前は洋服だけ扱っていたのですが、洋 服店でグリーンを一緒に売っていたり、サー

フィンを楽むような人の暮らしに日常的に必要 となるもの、洋服はもちろん、タオルとか、雑 貨、サンダルなどを1つの店舗で扱ったわけで す。洋服店というよりはライフスタイル店に なった。これを日本に持ってきたら、急速に広ま りました。最初は、感度の高い一部の人が楽し むものだったけれど、だんだん一般化して、今 では低価格を売りにしている家具メーカーで も「カリフォルニアスタイル」を出したりしてい ます。つまり、植物がより身近になっているの は確かですが、ファッションなんですね。「植物 を育てている僕ってかっこいいでしょ?」という 感覚なんです。こういうノリで若い人を中心に 店舗のインドアグリーンが大きく広がった。商 業施設もグリーンをレイアウトすれば、人が集 まるのではないかと、盛んに扱うようになりまし た。でもそれは結局、植物が"客寄せパンダ" として使われているということです。それを象 徴したものといえますが、今、インドアグリーン をデザインして活躍しているのは、庭園業界 の人のみだけではなく花屋さん出身の、花の アレンジが得意なアーティストも多くいます。 彼らは、確かにその場の演出は上手で、華や かに見せることができる。期間限定のイベント なら、それでいいのかもしれません。しかし商 業施設には1年、あるいは数年単位でグリーン があり続ける。その視点で空間をプロデュー

スできる人はほとんどいないんですね。庭のように「植えてからがスタート」という感覚をもっていないと本当の緑の空間はできないと思います。

加藤 花屋さんは、その空間を花を活ける技で瞬間的に変えてしまう。3日間だけはとにかく 華やかに、と頼んだら上手く演出してくれます。 高岡 見せ方は確かにうまいですね。

大山 私たちはその見栄えと戦わなくてはいけないんです。私はあくまでも庭の感覚で勝負すべきだと思っています。ですから、私が一緒に現場を納めるのは、造園出身の職人さんがほとんどです。生の植物を使って庭を造っていない人は、自生しているときの本物を見ていないから、葉の向きとか植え付けの角度とかがわからないんです。

高岡 大山さんはどんなことを考えて今の仕事をするようになったんですか。

大山 学生時代のゼミでは、屋内緑化や屋上緑化、壁面緑化など、都市空間にどういう技術を使って緑を入れていくかということを研究していました。卒業する時に、庭づくりにどう関わっていこうかと考えたときに、名勝庭園を先代から受け継いでいくという仕事がある一方で、庭を新たなフィールドでつくりあげていく仕事もあると思いました。ただし、リアルな地面だけを活動領域にしていたら限界が

あると思ったんです。都心のビルの屋上には 庭がつくれるし、工夫次第で壁も庭にできる。 部屋の中でもつくれる。実は、都市部でも造 園家の仕事の領域は広いのではないかと思 いました。私は今のインドアの緑化の仕事も 造園だと考えています。対象とする空間を都 市に広げながら、造園の仕事をしていきたい と思ったんです。

加藤 それも広い意味では日本庭園ですよ ね。その進化形といっていい。

大山 日本庭園というのは自然美を表現するものですよね。それがリアルな地面でできないときに部屋の中でどう表現するかということです。ただ、庭に対するしっかりとした考え方をもっていないとできないと思います。その意味では今日見せていただいた無鄰菴から学ぶことは本当に多いです。

加藤 日本庭園というのは決して"金太郎 飴"ではないんです。同じものは一つもない。 それぞれの考え方があり表現がある。山縣さ んも無鄰菴でそれまでにないことをたくさん やっています。今までにない発想で、新しい場 所で表現していくということは大いにあること だと思います。伝統的な庭だけが日本庭園で はないということは私自身が発信していくべき ものだとも思うんです。庭の存在を家庭の中 の身近な、手軽なものとして、それこそ部屋の 窓からの眺めであったり、あるいは床の間の 一輪の花にも日本庭園のエッセンスを感じる ことができる。大山さんがつくられるようなも のは庭がそのまま部屋の中に入ってきたよう なもので、そういう暮らしの中の身近な庭と、 改めて訪ねて感じ取る無鄰菴のような大き な庭と、両方大切なのだと思います。

高岡 そうですね。加藤さんが扱われる日本庭園も、大山さんの非住宅空間の緑も、それぞれ魅力があります。個人住宅の中の庭や緑が本当に貧しくなってきているなかで、お二人の仕事から学べるもの、感じ取れるものは大切ですね。それに向き合う中から、豊かな心の文化を改めて発見し、住まいに取り入れて受け継いでいきたいですね。

庭は竣工した時点から 見つめられ、育まれていく

高岡 加藤さんは、会社の中でも学びを大事にしていらして、社員の皆さんの研修にも熱心に取り組まれていますが、庭文化の継承という点では、庭師の皆さんのなかでどんなことを考えているんですか?

加藤 「伝統から学ぶ、仲間から学ぶ」という ことを会社として積極的に進めています。

商業空間の緑化は 庭を知っている造園家の 仕事でなければ ならないと思う 大山

加藤 夢窓疎石が天龍寺や西芳寺(苔寺) で、小堀遠州が二条城二の丸庭園や南禅寺 金地院でこんなことをしたといっても、今、自分 の口で語ってくれるわけではありません。庭を眺 め、文書を読み説いていく必要があります。他 方、これまで京都であれば1200年以上も庭を 守り続けてきた先輩庭師たちの仕事を掘り下 げて得られることはたくさんあります。現世の仲 間と庭を育み、語り合い学び合っていくことも できる。日本最古の作庭書で平安時代に橘俊 綱によって書かれたとされる『作庭記』の中に 「むかしの上手のたてをきたるありさまをあととし て、家主の意趣を心にかけて、我風情をめぐら して、たつべき也」と書かれています。すでに平 安時代の人が、まず昔の上手な先輩の仕事を お手本にしなさいといっているわけです。作庭 工事をやっていて、竣工しました、という時が来 ます。お母さんのお腹から赤ちゃんが生まれた のと同じで、庭はその時点から見守られ、育まれ ていくわけです。特に何百年という歴史を持つ 庭の景色となると、もうこの世にいない先輩庭 師たちがお世話をしてくれた結果です。そうやっ てできあがっている景色の深みを受け止めてい



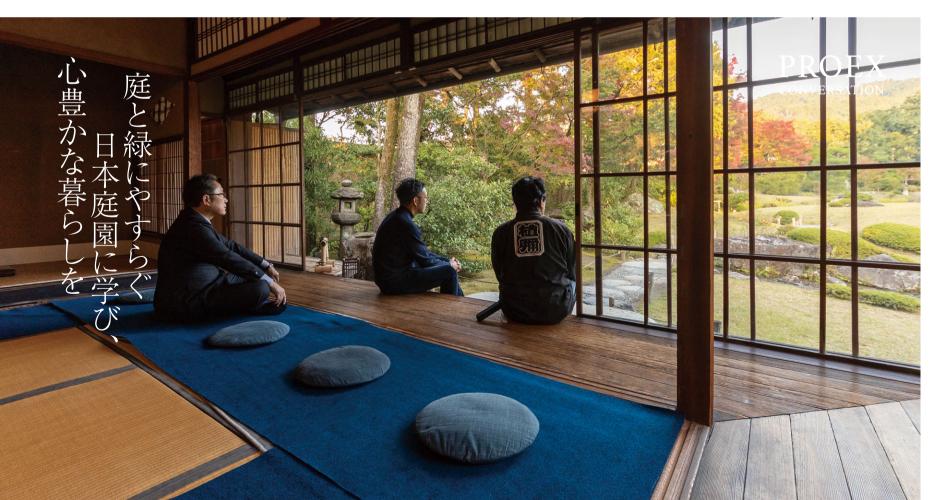
かなければいけない。さらに「家主の意趣に心を かけて」とは、つまりクライアントのニーズにも ちゃんと心を配っていかなければいけない、そし て最後に、ただ先輩の真似をするのではなくて 「我風情をめぐらして」、つまり、最後は自分の 感性や美意識でやり遂げるんだと教えていま す。これは現代にも通じる大切な哲学であり教 えだといえます。

高岡 いい言葉ですね。その時代その時代の 庭師が先輩から学んだもの、施主の思い、さら にそこに自分らしさも加えて、庭づくりに挑んで きたということですね。感性や美意識も学びな がら鍛えていくという面もあるわけですね。

加藤 同じく、「作庭記」では「国々の名所をおもひめくらして、おもしろき所々をわがものになして、おほすがたを、そのところになずらへて、やわらげたつべき也」とも書かれています。つまり、庭造りには、いわゆる技術的なことだけではなく、名所(などころ)といわれるような景色を知り、観察し、理解する美的教養も必要である、と説いています。そうやって感性を磨きながら、仕事をしてきたんですね。このように庭を育むということを通じて、現世でお預かりしている我々と、この世にもういない先輩たちとの対話を楽しみつつ、学んでいるのです。

庭師としての 立ち居振る舞いが 庭の価値を高めているか

加藤 私は幼稚園の頃に大阪万博に連れて行ってもらい、様々な分野のテクノロジーの進化を目の当たりにして、「これからの世界はすごいことになるんだな」と幼いながらに感じていました。それから50年が経過した今、テクノロジーの進歩は幼少期の私が感じた通り、目を瞠る進歩を遂げました。その一方で、庭師の心と技は





右肩下がりの一途を辿ったような気がしてなり ません。つまり、ハイテクは上昇し、庭師の心と 技は下降していったのですね。今は意識して自 然と向き合うということをしないと、例えば天気 の予測はスマホの雨雲レーダーで見る、という ことになってしまう。雲の動きを見たり、風に湿り 気を感じたりといった自然が発するサインを見 極める力があれば、お天気の移り変わりはわか るはずです。昔の庭師はみんなわかった。雨が 降り出すから今日はこれで引き上げよう。道具 をしまえと指示ができたんです。今はパソコンは 使えるようになったかもしれないけれど、自然を 感じる力が退化している。それでは困るわけで すね。それから私はよく若い人を現場に送り出 すときに、庭師として仕事をする姿が庭のスパ イスになり、絵になっているか、庭の価値を上げ



る添畳になっているかが大切だといっていま す。庭師の姿が風景を乱すようではだめなんで す。庭師の存在が庭の価値を上げているかどう か、それは大事なことです。私の祖父は、日曜日 にお庭のお手入れに出かける時はどこか誇らし げでした。なぜかというと、そのような日は、施主 が知人に庭を披露するにあたって、小鳥の囀り や小川のせせらぎに加えて、庭師が手入れする 植木鋏の音を響かせるために呼ばれているか らです。庭に人の営みを加えた風景をつくって、 庭を全体として味わう演出をした。こうした工夫 こそがおもてなしだったのですね。利休がきれい に落ち葉を掃いた後に、木の幹を軽く叩いて少 しばかりの葉を落とし、風情を添えたというエピ ソードはよく知られています。そういう美意識や 感性は大切です。"清掃作業員"なら、落ち葉を 残らず片付けて終わりでしょう。しかし庭師は作 業員ではありません。雲の動きで天候が読め、 あえて落ち葉を散らす美意識を持ち、自分の手 入れする姿が加わることで庭の価値を高める 存在でなければならないと私は思っています。 その姿が邪魔で余計なものに見えたらまだまだ なんです。

高岡 絵になるというのは大事ですね。それは プロフェッショナルの世界にはすべて通じることかもしれません。

ストーリーを発見し未来に つなぐのは私たちの役割

高岡 今日、無鄰菴を加藤さんにご説明いた だきながら見て思ったのは、庭に込められた思 いとかストーリーを知ることの大切さです。施主 や作庭者の思いが伝わると、味わいが何倍に も深まります。

大山 見えているものの背後にあるストーリー の大切さですね。

加藤 例えば、銀閣寺の境内には、白砂を盛り 上げた向月台(こうげつだい)と呼ばれるものが あります。これのつくられた目的は分かっていま せんが、今では銀閣寺の境内に欠かせない景 色です。実は銀閣寺の池には白砂が流れ込ん でたまりやすいんですね。大文字山の花崗岩が 削られて白砂になって流れてくるわけです。です から庭師は、今でいう浚渫(しゅんせつ)をして 砂を掻き出していました。その時、砂をただ土手 に積むだけでは面白みがないから、盛り上げて いった。当時はあまりにも斬新で、なにこれ?と いうものだったかもしれません。しかし、それが月 の出を待つ台というようなストーリーを持ち、時 代に愛され伝統になっていった。後の人が評価 しストーリーとして受け継ぐことで伝統になって いったわけですね。先輩庭師たちの革新的な チャレンジを後の人がそこに価値を見いだし受 け継ぐ中で伝統になる。先輩の業績を受け継 ぐという意味での継承はもちろんですが、継承 には伝統の創造ということがあると思うんです。 高岡 伝統を新たにつくるわけですね。

加藤 そうです。伝統を継承するだけではなく、 新たに伝統を創造することは、現世を生きる私 たちの大切な役割でもあります。だから、今はも う姿はないけれども、庭の隅々に表現されてい るものを通して、先人と対話することが重要な んですね。 高岡 今の我々が見つけ出し、ストーリーとしてつないでいく。

加藤 はい、伝統から学ぶ、伝統を継承するということはそういうことではないかと思います。非常に創造的なことなのだと。

高岡 建築には限界が来ていて、21世紀は 庭の時代だといわれてきました。しかし日本人 は裕福な人がつくるのが庭だと思っています。 お金持ちの話であって自分には関係ないと 思ってしまう。

大山 確かに日本庭園というと、敷居の高い ものというイメージがついて回りますね。

加藤 おっしゃる通り、日本庭園は世界に誇る 我が国固有の文化ですから、敷居が高く感じられる方も多いでしょう。しかし、私自身は伝統 的な日本庭園だけでなく、現代の「市中の山居」としてのささやかな緑空間に日本人が癒され感動するという場をつくっていきたいと思っています。

縁側という 伝統的な家と庭の 中間領域を 復活させたい 高岡

PROEX CONVERSATION

高岡 ある意味では敷居が高くて当たり前ですよね。文化として素晴らしいのですから。 加藤 そうなんです。それでも私は日本庭園について「難しそう・わからない」や「めったに行かない・行けない」というように敷居を高く感じられている現状が残念で何とかしたいと思っています。やはり、名勝となるような日本庭園と、身近な緑空間の両方あってこそ、心豊かな暮らしの空間と文化が育まれるのですから。

大山 敷居は高くてもそれはいいと思うんで す。でも茶の湯であったら茶道、お花だったら華 道があって、印象としては庭と同じくらい敷居が 高いけれど、誰でもチャレンジできます。習いたいと思ったら習う機会がある。ところが庭は習えないんです。技術の高い職人さんの世界の中で属人化され、閉じられてしまっている。ですから、庭の文化を継承し広めていくということを加藤さんのような方がやっていらっしゃるのはすごくインパクトがある。体感したり習う機会がもっと増えていくように、こういう試みがもっと広がっていけばと思いますね。

高岡 国のガーデンツーリズムへの取り組み、2027年3月から横浜で開催される国際園芸博覧会に向けたさまざまな取り組みなど、庭や緑への関心は少しずつ高まっていくと思います。その動きの中で、住まいの庭がもっと充実していってほしい。それを後ろで支えてくれるのが加藤さんの名勝庭園であり、大山さんがつくる都市部の緑化空間であると心強く思っています。今日は長時間どうもありがとうございました。

※文中の『作庭記』からの引用及び山縣有朋の記述・発言の一部は現代仮名遣いで表記しています。

Shiseido Shiodome Office



資生堂汐留オフィスの緑空間

資生堂汐留オフィス10階・11階を、同社の社名の由来でもある「万物資生」を具現化させるべく、非日常の空間を味わえるグリーン溢れる オフィスへとリノベーションした。全体のグリーンデザインを緑演舎が担当。日本古来の奥深い自然美を実現するために、樹種にこだわり、 地際のディテール、壁面や天井の演出と、正に空間全体を使って表現した。